



LMSリプレイスは 環境改善 最大のチャンス！



選定で失敗しないために
知っておきたいポイントとは

LMSリプレースの成功と失敗

LMSは、将来を担う学生に対して質の高い学習環境を提供し、さらに大学運営を効率的に行うために重要な要素のひとつです。

長期的に活用するLMSは、一定期間ごとに「リプレース」を行わなければなりません。

リプレースは、システムの乗り換えやインフラ機器の更改など、大規模なプロジェクトとなります。

この時、貴大学では**どのような観点でシステムを選定**しているでしょうか。

大学運営の根幹を担うLMSの選定が成功するか否かは、今後数年間の大学運営に大きな影響を及ぼします。

当資料では、リプレースにより着実な進歩をし、後悔のない製品選定を行うためのポイントを紹介します。



[目次]

- P001 | LMSリプレースの成功と失敗
- P002 | 迫るLMSのリプレース。なにを考える？
- P003 | 大学の希望を叶えるためには「適切なRFIの作成」が重要
- P004 | RFIの作成を困難にする3要素
- P005 | OSSのカスタマイズではなく、有償製品を選択するメリット
- P006 | 有償製品の検討時に知っておきたいポイント
- P007 | カスタマイズ性を備えたResonant LMS XP
- P008 | シンプルで使いやすいCanvas LMS SaaS
- P009 | 広い視野を持ったリプレースを！

迫るLMSのリプレース。なにを考える？

大学ごとに方針や個別の要件はありますが、次の3点は**多くの大学で当てはまる必須事項**と言えるでしょう。

大学の**目的を達成**できること



現行システムの課題を解決したい

大学運営を効率化したい

学習環境の品質を向上させたい

利用者が使いやすいシステムにしたい

安定稼働すること



障害に強く、機能が停止しづらいシステム

前提となる環境知識が増えすぎないか？

高度な知識を要求されない運用管理

トラブルに対処できること



難解すぎるシステムにならないか？

頼れるサポートはあるか？

» 多様な要件を実現するために、**多くの大学はLMSの入札**に向けて動き出します。

大学の希望を叶えるためには「適切なRFIの作成」が重要

希望通りのリプレースを実現するためのアプローチとして、**OSSの独自カスタマイズ**は代表的な方法です。
リプレースへ向けてRFIを作成する時は、どのようなことを考えれば良いのでしょうか。

必須機能の洗い出し



小テストの作成

通知機能

学習状況管理

遠隔授業

現環境の課題整理



操作が難しい

バージョンアップ

データ蓄積

トラブル対応

課題を解決するアプローチの検討



サポート

マニュアル

インフラ改善

RFIの作成は、**大量の情報を収集・検討**する必要があります。

RFIの作成時点で誤りや不足があると…



事業者からの質問攻め



入札参加事業者の減少



運用開始後に問題が発覚



RFIの作成は、責任重大かつ**失敗の許されない業務**と言えます。
さらにこの後には、RFPの作成や事業者との調整など、**適切なRFIが前提となるフェーズ**が待っています。

RFIの作成を困難にする3要素

多くの工数や未確定要素、後続フェーズへの影響の大きさも相まって、RFIの作成自体が難航してしまうケースも珍しくありません。なぜ、RFIの作成はこれほどまでに困難なものになっているのでしょうか。

多くの大学で当てはまる要素として、「運用の複雑化」「情報・知識不足」「人手不足」の3点が考えられます。

複雑化した運用に合わせる



一部の先生向けの特殊要件を満たさなければ…

この運用に則した機能を考えなければ…

情報・知識が不足

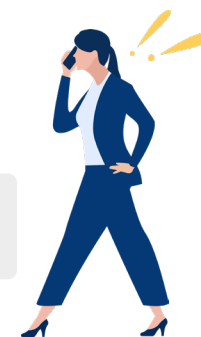


将来はどのような機能が
必要になるのか…

多くの人が使いやすいUIとは
どのようなものなのか…

もっと良い方法が
あるのでは…

人手不足



十分に検討するための
時間が足りない…

現状の課題を全てリストアップ
できているのかわからない…

この問題を解決するためには、大量の情報収集を行ない、十分なリソースで分析し、
それらを最適化したLMSシステムの構想を考えなければなりません。

» しかし、予算や人員に限りがある環境では、このアプローチを取ることは困難です。

OSSのカスタマイズではなく、有償製品を選択するメリット

LMSを導入・リプレースする時に重要なことは、「完璧なRFIを作り、その要件を満たす」ことでなく、**LMSが十分に効果を発揮すること**です。
必要な機能がパッケージングされた有償製品で十分な効果を発揮できるのであれば、**有償製品も有力な選択肢**となるのではないのでしょうか。

有償製品のメリット



多数環境での運用実績 ▶

ナレッジやノウハウが豊富

運用や利用方法はマニュアル化済み

最適化による安定した動作

多くのトラブルに対策済み



手間の少ない導入 ▶

多くの必須機能は実装済み

最小限のカスタマイズ

頼れるサポート

RFIやRFP不要



安定したシステム稼働 ▶

スムーズなバージョンアップ

LMS運用が属人化しづらい

多数の環境で発生した障害や課題に対策済み

» 最適化されたLMSを簡単に導入でき、安定した運用を行える点は、有償製品の大きなメリットです。

有償製品の検討時に知っておきたいポイント

有償製品には前述のように大きなメリットがありますが、**理解しておくべきポイント**もあります。

運用を製品に合わせる

これまでのやり方を変えなければ
ならないシーンがある



実際の活用シーンを想定する

現在のLMSで使用している機能と、製品に搭載さ
れている機能を比較し、運用がどの程度変化する
のかを明確にする



コストの変化

追加されるコスト

LMS製品の
ライセンス費用

削減されるコスト

OSSカスタマイズ費用

RFI作成等の人的コスト

カスタマイズに起因する
トラブル対応コストや損失



パナソニック インフォメーションシステムズでは、大学のニーズに合わせた2種類のLMS製品をご提供しています。

ご要望に応じたカスタマイズが可能

Resonant LMS XPは… **P007**へ ▶

SaaSによるスピーディな導入

Canvas LMS SaaSは… **P008**へ ▶

》 完全に要件と合致した**カスタマイズが必要なのか**、許容できる**変化はどの程度なのか**を十分に検討することが大切です。

カスタマイズ性を備えたResonant LMS XP

Resonant LMS XPは、大学の必須機能を統合し、**クラウドでもオンプレミスでも構築可能**なMoodleベースの製品です。

導入の流れ

1

まずはご相談

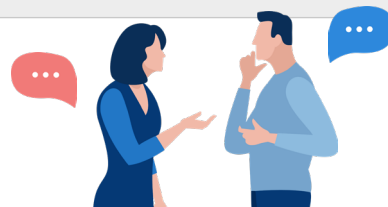
お気軽にお問い合わせ下さい



2

ヒアリング

大学運営や社会環境に
精通した担当者が
ベストプラクティスをご提案



3

導入

パナソニック(Resonant社)にて
導入を実施いたします

導入工数やトラブルの
ご心配は不要です

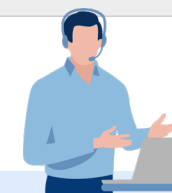


4

運用開始

マニュアル、
日本語フォーラム完備

24時間365日のサポート※



※休日、深夜はサービスを利用できない不具合対応に限ります。

Resonant LMS XPの強み

カスタマイズ性

- プラグインによるカスタマイズに対応
- バージョンアップ前にプラグインの動作検証を実施し、トラブルを防止

バージョンアップ対応

- 年度毎に最新版へバージョンアップ
- バージョンアップの前に試用できる検証環境をご用意

充実のサポート

- 運用中の困りごとを徹底サポート
- 豊富な運用実績によるスムーズなトラブル対応

➤ Resonant LMS XPは、
導入や運用に不安を感じることなく、
かゆいところに手が届く
LMS製品です。



シンプルで使いやすいCanvas LMS SaaS

Canvas LMS SaaSは、**インフラ環境を用意することなくご利用いただける**「Canvas LMS」ベースの製品です。

導入の流れ

1

まずはご相談

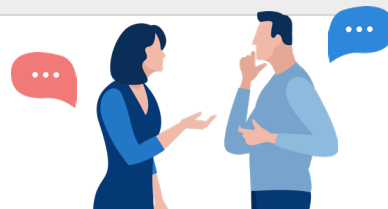
お気軽にお問い合わせ下さい



2

ヒアリング

ご不明点や疑問点は
導入前に解消



3

導入

システム構築不要

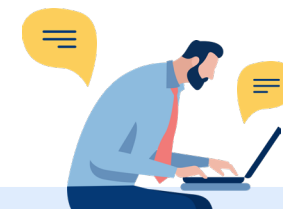
必要な機能はSaaSでご提供



4

運用開始

メーカーサポートを利用可能



Canvas LMS SaaSの強み

容量無制限

- 容量を気にせず運用可能
- 動画やCG等、大容量のコンテンツを自由に保存

コミュニケーション

- 学生と教員がスムーズに会話できるチャットツールを搭載

動画配信機能

- ディスカッション機能により、受動的になりやすい視聴学習を能動的なディスカッションに！



Canvas LMS SaaSは、
**カスタマイズ無しでシンプルに活用でき、
圧倒的なスピードで導入することができる**
LMS製品です。



広い視野を持ったリプレースを！

LMSのリプレースは考えるべきことが非常に多く、
現システムの課題や改善点、これから必要となる機能を網羅
したRFIを作成することは容易ではありません。

実際の大学で運用実績のある有償製品により、標準化された
LMSの運用を行なう判断には大きなメリットがあるのではな
いでしょうか。

現在の運用を製品の仕様へ寄せることは負担も生じます。

しかし、多数の実運用環境から集約された膨大な
データをもとに考え抜かれた運用は、これまで以上
にLMSの導入効果を高める可能性を持っています。

パナソニック デジタル株式会社が提供する
「Resonant LMS XP」と「Canvas LMS SaaS」は、
多数の大学で運用を重ね、機能の拡張や最適化を繰り返しています。

カスタマイズ可能！

Resonant LMS XP

スピーディな導入！

Canvas LMS SaaS

システム導入やリプレースに向けて要件定義を始める前に、
ぜひパナソニック デジタルへ
ご相談ください。

お問い合わせはこちらから >

ご連絡先

パナソニック デジタル株式会社

大阪本社

TEL/06-6906-2801 住所/〒530-0053 大阪市北区末広町2番40号

東京本社

TEL/03-5148-5634 住所/〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号

Panasonic